

発行所 社会福祉法人 正心会

老人福祉施設 さぎそう園

〒666-0152 川西市丸山台3丁目5番地の6
TEL／072-794-7600代 FAX／072-794-7573

総合福祉施設 ハピネス川西

〒666-0025 川西市加茂3丁目13番26号
TEL／072-755-1313代 FAX／072-755-1314ホームページアドレス：<http://www.seisin.or.jp>平成31年4月
第55号

正心会

みちのり



鍼灸院の先生にじっくりお話を聞ける貴重な機会とあって、次々と質問が飛びます。毎回参加されている方が多く、「前回教わったことを早速家でやってみました」「いただいた資料は全部ファイルしてるんですよ」といった嬉しい声も聞かれます。

昨年1月にオープンした「ローソン見野3丁目店」の店内にある東谷地域包括支援センター出張所。普段はイートインコーナーとして使用される相談窓口前の一角は、「シニアサポート」として多くの方が集まり、語り合う場でもあります。その一環として毎月開催しているのが、「てらだ鍼灸院」寺田院長による健康講座です。「手首」「膝」「腰」などの部位ごとに、痛みの原因やメカニズムをわかりやすく解説し、自宅で出来るセルフケアを教えていただいています。



ボランティア懇親会

ハピネス川西・さぎそう園は地域のボランティアの皆様の活動に支えられています。平成30年度も感謝の意味を込めてボランティア懇親会を開催させて頂きました。ご利用者、施設職員ともボランティアの皆様のご来所をいつも楽しみにさせて頂いています。

今後も地域の皆様と共に楽しみのある施設づくりを目指していきます。



ハピネス川西ボランティア懇親会での1コマ



手事・報告

分に豆まきをしました。



ハピネス川西
障がい者
デイサービス

ハピネス川西
作業所

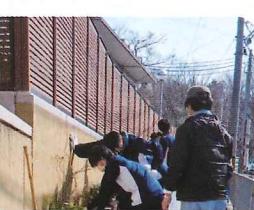
アサヒ飲料
明石工場へ
行きました。

ボランティアグループ「ひまわり」の皆さん ひょうご県民ボランタリー活動賞受賞!

う園でボランティア活動を永く続けていただいている「ひまわり」さんが、平成30年度の「ひょうご県民ボランタリー活動賞」を受賞した。

区福祉委員会地区ボランティア部会として平成10年に発足した「ひまわり」さんは、地区の高齢者や障がいを持った方々、子育て世代の方々を目的に活動を開始されました。やがてその内容は地域住民を中心とした傾聴や話し相手、特別養護老人ホームでの援助活動、地域行事での保育ボランティア、小学校登下校時の見守り等へと活動内容を広げています。さぎそう園におきましても、喫茶の開催やご利用者の整容や話し相手、誘導や見守りなど、いずれもご利用者の方々に楽しみにされている時間となっています。

地域に根ざした多岐に渡る活動で、たくさんの笑顔を生み出しているのではないかと思います。



北陵高校ボランティア

3月5日、兵庫県立川西北陵高校の生徒さんが、
勤労体験学習として今度もさぎそう園に来園され



尽きることないまだ見ぬ地への好奇心 ～夫婦で行くカムチャッカクルーズ～

真瀬さんご主人の趣味はカメラ。ご自宅の居間に飾られた素敵なお写真を見て、記者が「見事な富士山ですね」と言うと、ご主人は「そう見えるでしょ?実はあの写真、富士山じゃなくてカムチャッカの山なんですよ」とニヤリ。日本とは桁違いの雄大さを誇るカムチャッカ(ロシア)では、2千~3千m級の美しい名峰がたくさんあるのだとか。

そんなカムチャッカにご夫婦で行かれたのは、昨年の初秋。12日間の豪華客船クルーズです。横浜を出発し、中心都市ペトロパブロフスク・カムチャッキーに到着するのは4日後という長い旅程でしたが、以前から国内外を問わず船の旅をこよなく愛してきたご夫婦にとっても、今回のカムチャッカは念願の地だったそうです。

「極寒の地ですからね、客船が寄港できる時期 자체が短いんです。天気の悪い日が多くて、写真を撮るために苦労しました」(繁さん)

ロシア正教の教会など多くの被写体に恵まれたそうですが、特に目を引いたのがその街並み。

「一軒家が少なくて、集合住宅が多いんですね。その建物がどれも赤、青、黄色とカラフルなんです。どこの国とも違う独特の街並みでしたね」(繁さん)

「何軒かの一般家庭に分かれて、家庭料理をご馳走になったんです。そのお宅がとても親切で、ロシア料理だけじゃなくご飯も出してくれたんです。“そろそろお米が食べたくなった頃でしょう?”と気遣ってくださったんでしょうね。船に戻ってから客同士で報告し合うと、“あなたが行ったお宅が一番親切だったかも”と笑われました(笑)」(千鶴子さん)

街を走る車は日本の中古車が多く、日本とのつながりの深さを実感されたそうです。そういったことも、日本からの観光客を歓迎するムードに繋がっているのかもしれません。

新鮮な海の幸が揃う「自由市場」では、娘さんにイクラの缶詰を購入。

「サケやマスの仲間の魚卵はどれも“イクラ”という名前で呼んでいましたよ。ひょっとしたら魚卵は全部“イクラ”なのかも」と繁さんが笑い、取材に同席された娘さんと目が合うと「お土産は本当のイクラだからね」と少々慌てた様子になる楽しい一幕もありました。

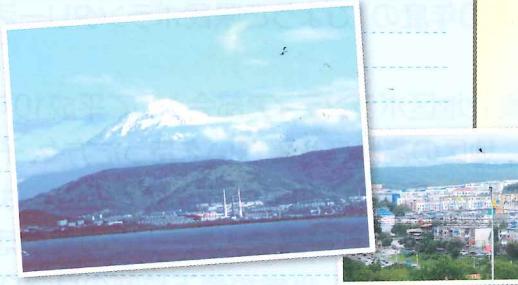
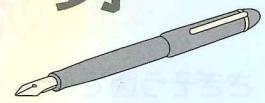
紳士的な船長を始め、船のスタッフの最上級のもてなしも船旅の魅力。船内で知り合った方達とその後も交友が続いたり、北海道への旅ではオーストラリアからの一行と同じ会場になってグローバルな交流が生まれる等、人との出会いが何よりの思い出というご夫婦。千鶴子さんは「お父さん、まだまだいろんな所に行きましょうね」「前に行った所を再訪するのも楽しいかも」と笑顔で話しておられました。今年も既に南西諸島へのクルーズが決まっているそうです。お二人の旅への好奇心はまだまだ尽きることが無いようです。



東谷地域包括支援センター
総合相談ご利用
ませる
眞瀬 繁さん・千鶴子さん
ご夫妻

私

の見聞録



今は入職して4年目となる中村さんにお話を聞きました。



ハピネス川西
特別養護老人ホーム
介護職員
中村 龍二さん

この仕事に興味を持つたきっかけは高校時代の先生からの紹介でした。高校卒業間近、進路に悩んでいたのですが、進学するか就職するか自分自身でも決めかねていて先生に相談した時に、先生から福祉関係の資格や仕事があるというお話を聞き興味を持った事がきっかけです。その後福祉関係の専門学校に進学し介護福祉士の資格取得後現在の職場に就職しました。

職場には自分の学校から来た先輩方も何名かいて職場の方たちには恵まれていると感じています。上司や先輩達も優しく、食事などにも誘つてもらえるので楽しく働けています。ただ、私が就職した時期には同期として入職した職員がない為、その点は少し寂しく感じています。

休日はどちらかといえば、自宅でゆっくり過ごす事が好きなほうで、あまりこれといつて趣味といえるものは無いのですが、体を動かすことは好きです。中学時代は野球、高校では陸上をやっていました。高校時代、もともと陸上部の短距離走者として誘われて入部しました。足はそれなりに速かったのですが高校の陸上部となると、周囲はさらにレベルが高くてついていくのが難しそう

おたから
人財发掘

日々精進



「朝採りの恵み」を使ったマフィン



ハピネス川西作業所製菓班では、川西の特産品であるいちじく「朝採りの恵み」のおいしさを一人でも多くの方に届けたいとの思いから、世界で活躍されている「パティシエ エス コヤマ」オーナーの小山進シェフにご協力を頂き、「朝採りの恵み」を使ったマフィンの作り方を直伝して頂きました。小山氏からいちじくの風味を引き立たせる素材の組み合わせ、調理法を詳しく教えて頂きました。今夏シーズンへの完成を目指し試作を繰り返し、日々精進しています。



川西産いちじく 「朝採りの恵み」の特徴

- ・風味が良い
- ・甘みが強い
- ・果実が大きい

なぜ川西でいちじく？

- ・猪名川流域の良好な土壌が栽培に適していたから。
- ・完熟の状態で収穫する為実が柔らかく長距離の輸送に向かないが、川西は大阪などの都市部へのアクセスが良いので新鮮なうちに店舗に届けられるから。



池田北高校 陸上部時代
写真前列左から4人目が中村さん

だと感じていました。そんな時に陸上部の顧問の先生が現役のハンマー投げの選手だった事もあり、ハンマー投げをやってみないかと声をかけられ、そこから高校時代はハンマー投げの選手として陸上の大会にいくつか出場しました。長居競技場や万博競技場など大きな競技場で開催された大会に出場した事もあり、とてもいい経験になりました。

一時期仕事終わりや休日にジムにも通っていました。その時は体を絞つて10kgほどの減量に成功しましたが、ジムも時間帯により人が混んでいる事も多いので、なかなか自分のやりたいメニューができず、最近はあまり通えていません。また頃合いを見て通いたいと思っています。

仕事に慣れてきた頃ですが今一度初心を思い出し、ご利用者が少しでも楽しく、また刺激のある生活を送れるよう頑張って支援していきたいと思っています。

介護技術講習会を実施しました!

この度、平成30年11月19日にハピネス川西にて、兵庫県の委託事業である介護技術講習会を地域の方々を対象に実施させて頂きました。

施設職員により、車椅子の操作や食事介助、身体介助時の注意点等、実技を含んだ講習会を実施させて頂きました。実際にご家族の介護を経験されている方もおられ皆様真剣に聞き入っておられました。



ニュース

ハピネス川西と隣接する場所に
2019年4月1日より
「加茂こども園」がスタートします。



名 称 川西市立加茂こども園

施設種別 幼保連携型認定こども園

定 員 230人

開設時間 午前7時から午後8時(午後6時以降は延長保育)

開 設 平成31年4月1日

加茂こども園は市立加茂幼稚園と加茂保育所を一体化し、それぞれの良さを合わせ持つ幼保連携型認定こども園です。

幼稚園機能を利用する1号認定児(3~5歳)の定員は170人、保育所機能を利用する2号(3~5歳)・3号(0~2歳)認定児の定員は60人、合計230人の定員となる比較的規模の大きな園です。

加茂こども園では子どもたちの発達段階に応じたカリキュラムのもと「生きる力の基礎を育む保育」に取り組み、地域の子育て拠点の役割を果たしていきます。

(川西市教育委員会 こども未来部より)

みちくさ便り

